



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2551号)

令和8年2月16日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ホタルイカ・ハタハタの来遊状況等について (調査船「たじま」による半中層トロール調査結果)

令和8年2月12日に浜坂沖で漁業調査船「たじま」により、ホタルイカ漁場形成の確認と、トロール試験操業および海洋観測を実施しました。(図1)

1. 漁場形成調査

・底びき船は浜坂沖ズワイガニ保護区域の西側の水深230-250mに漁場が形成されていました。(図2)

2. トロール試験操業結果

・半中層トロール網(袖先間隔17m、網高さ8m、袋網16節、モジ網240経カバーネットあり)を使用しました。
・曳網は水深およそ245mと230mの2か所で曳網しました(3ノット、30分、E曳き)。(図1)

＜ホタルイカ＞

・入網量は245mで210kg/網、230mで201kg/網で、近年の同時期の入網量を上回りました。(図1、表1)
・平均外套背長(胴体の長さ)は48mm前後で、1月とほぼ変わらず平年並みでした。(図3)
・メスの割合は6～7割に、交接済のメスの割合も4割に上昇しました。
・2月に入り来遊量が急に増加し、漁期が開始しました。群は交接期を迎えています。

＜ハタハタ＞

・いずれも入網は1kg/網未満で、ごくわずかでした。(図1、表1)。
・1歳魚(120mm未満)が主体で2歳魚(体長140～160mm)がわずかに混ざりました。

＜餌料生物(カバーネット)＞

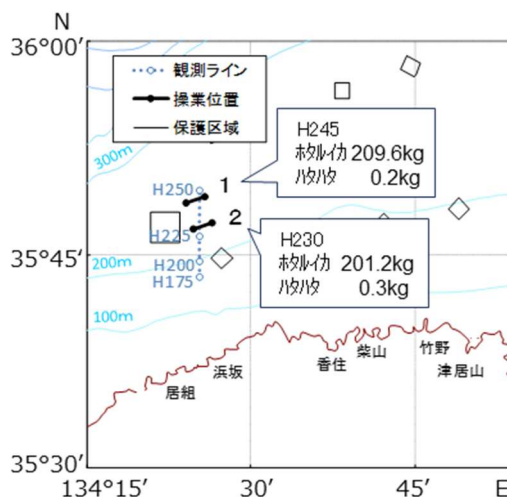
・両種の主要な餌である小型甲殻類はいずれも1kg/網未満とわずかでした。(表1)

3. 海洋観測と魚探収録

・水深175、200、225、250mでの海洋観測とその間の魚探収録を行いました。(図1)
・表層水温は11℃台まで低下して近年では低め、海底水温は近年と同等でした。(表1) 温度躍層(垂直方向に温度が急激に変化する層)は弱めでした。(図4)
・キュウリエソが主体と見られる濃い反応が水温5～8℃、水深190～220m付近で着底していましたが、それより深い水深の海底上に目立った反応は有りませんでした。(図4)

4. その他

但馬の今期ホタルイカ初水揚げは2月4日で、漁場が隠岐北東沖～鳥取県網代沖より始まったこと、漁獲が初日から高水準であったこと(水揚げ制限の400箱/隻に届く船あり)が特徴的でした。2月上旬には、稚イカの分布域とみられる極前線域より隠岐東方～鳥取県沖にかけて山陰若狭沖冷水が張り出しており、ホタルイカはこの冷水の反時計回りの流れに乗って集中的に南下した可能性があります。(図5、6)



お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター (担当：大谷)

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

email：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.html



図2 ホタルイカ操業船
(浜坂沖ズワイガニ保護区西側)

表1 入網物と水温

調査年月日	2026/2/12		(参考;過去データ)	
			2024/1/31	2023/2/27
海域	浜坂沖		浜坂沖	浜坂沖
操業点名	H245	H230	H250	H230
平均曳網水深(m)	248	233	247	232
入網重量 (kg/網)	209.6	201.2	190.4	44.0
ホタルイカ	0.2	0.3	10.8	0.5
ハタハタ	0.1	0.2	1.1	9.6
ホタルイカモドキ	0.4	0.2	0.0	0.1
キュウリエソ	0.3	0.2	9.8	261.2
オキアミ・ウミミ (カバーネット)				
表層水温(°C)	11.8	11.8	13.1	12.6
海底水温(°C)	2.3	3.2	2.6	3.4

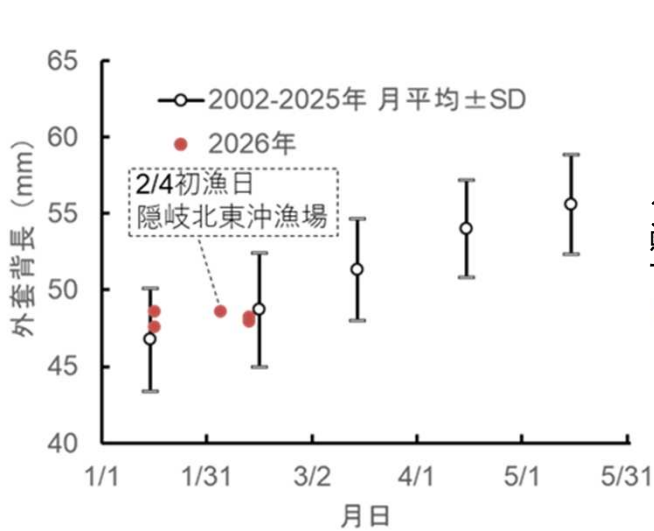


図3 ホタルイカの外套背長

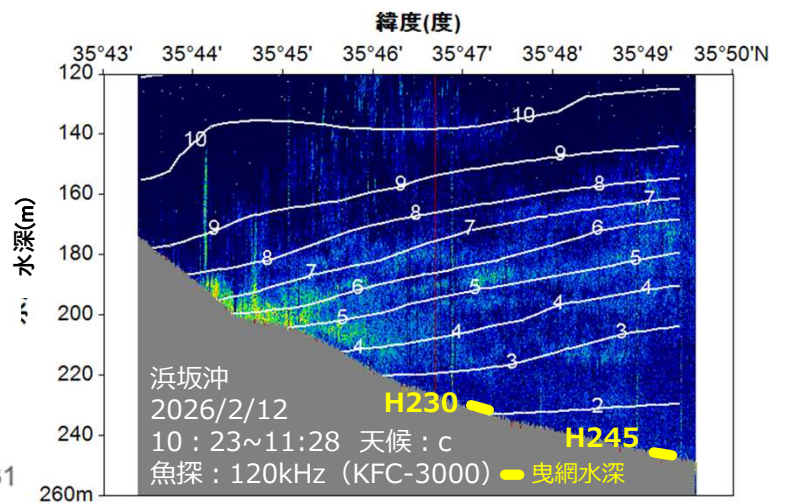


図4 水温鉛直分布と魚探反応

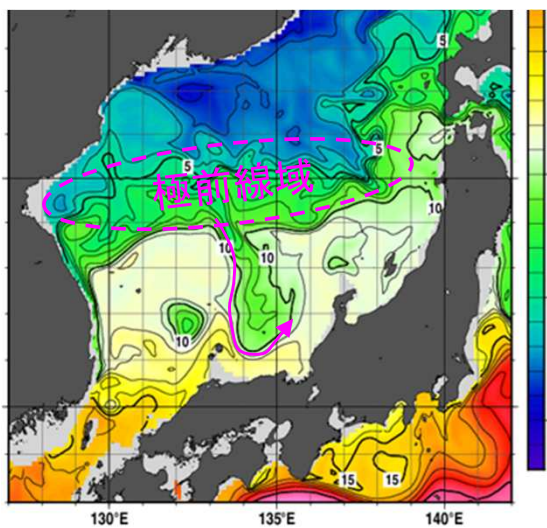


図5 旬平均100m水温(2026年2月上旬)
気象庁HPに加筆

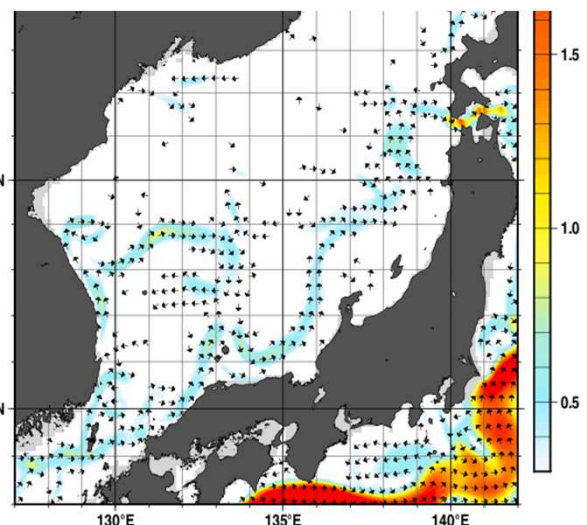


図6 旬平均50m海流(2026年2月上旬)
気象庁HPより